

佐土原ナスの優良系統選抜

【題名の補足】果実の揃いが良い系統の選抜を行い、品質を評価しました。

背景・目的

- 佐土原ナスは、江戸時代に佐土原藩で栽培されていた在来ナス品種です。
現在、各々の生産者が独自の選抜をしているため、県内での統一的なブランド化が難しい状況にあります。
- 宮崎県としての優良系統を生み出すことを目的とし、平成26年度より果実の揃いが良い系統の選抜を行いました。

成果の内容

- ナスの果実形状で比較すると、選抜系統はこん棒型の割合が77.4%であり、選抜を行っていない対照系統に比べ、揃いが良く、曲がりの少ない系統を生み出すことができました。

表 果実の特性

系統名	果重 (g)	果長 (cm)	果径 (cm)	ナスの形状(%)				
				こん棒型	楕円型	洋ナシ型	円筒型	曲がり(規格外)
選抜系統	283.2	22.6	7.0	77.4	3.2	3.2	0.0	16.1
対照系統※	260.3	23.0	6.3	28.6	9.5	0.0	9.5	52.4

※種苗会社から購入した未選抜系統

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 曲がりが少なく、揃いの良い果実が多くでき、品質の均一化・安定化に繋がることから、現地での利用が期待されます。



(図): 佐土原ナス栽培の様子



(図): 佐土原ナスの果実形状



■普及対象地域 県内全域

留意点

- 一般的なナスF1品種に比べて病害虫に弱く、梅雨時期にかけて褐紋病などの発生が多くなることがあります。

関連研究成果カード：平成30年度後期 番号32

関連事業名：地域作物の優良系統の育成と新しい食材の開発

研究期間：平成29年～30年